

令和6年度 学校関係者評価委員会 報告

1. 実施日時

令和7年5月17日(土)9時～10時

2. 学校関係者評価委員

看護学校管理者、卒業生代表(同窓会会長)、保護者代表

3. 学校評価の対象

- ・令和6年度教員による自己点検・自己評価
- ・令和6年度卒業時到達目標の達成度(卒業生自己評価)

4. 学校関係者評価委員による主な報告と意見

カテゴリー別結果の考察と意見

1) I(教育理念・目的)、II(教育目標)について

カテゴリーI(教育理念・教育目的)は昨年より0.2p下がり2.8p、カテゴリーII(教育目標)は0.1p下がり2.8pであった。教育理念・教育目的・アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー(DP)を掲げ教育方針を示しているが、特にDPに関する学生の意識化に取り組むたい。

2) III(教育課程経営)、IV(教授・学習・評価過程)について

III(教育課程経営)は、昨年同様2.6pであった。今年度は、3年課程の3学年がそろい教員の教育活動が最高レベルを迎えたが、教員数の不足により教員一人の業務量が多く、授業準備のための時間をとる体制は整えられなかった。今後、教員の専門性が発揮できるように配分し、かつ、授業の準備をする時間がとれる体制づくりを目指したい。教員間のチーム支援体制を整え、自己研鑽システムや相互研鑽システムの構築について取り組むたい。

IV(教授・学習・評価過程)は、昨年同様2.7pであった。授業内容の重複や整合性、発展性において0.3ポイント下がっている。また、学生に対する教育・指導に関する教員間の協力体制について0.3p下がっており、現在の役割分掌の見直しが必要である。次年度は、カリキュラムチーム、実習チームにそれぞれ主任を配置し、チーム支援型の組織を創っていきたい。

卒業生のDPに対する自己評価(資料2)は、ほぼ「そう思う」「とてもそう思う」であり達成感を得ることができていた。

(意見)→別府青山看護学校には、学生と教員の距離、実習指導体制ほか様々な独自の特徴があ

る。教員と学生とのコミュニケーションが取れているという印象。その特徴を活かすことで、日ごろの関係の中で学生の成長を期待することができると信じている。

3) V(経営・管理過程)、VI(入学)

V(経営・管理過程)は、昨年と同様 2.6p であった。財政基盤確保の考え方の明確化において、0.4p 上昇した。次年度は、教員の業務を支援するシステムの導入を計画している。

養成所の質の向上に向け、自己点検・自己評価の過程を循環・継続し、結果については多角的な視点から解釈・分析していく必要がある。学校関係者評価の継続と今後第三者評価の体系化を軌道にのせ、広い視野をもって看護学校経営に尽力したい。

VI(入学)は、今年度の第三回生は 48 名の入学となった。看護師養成所 3 年課程の特徴を活かしつつ、学校の広報活動に繋がる戦略的な企画をもって入学生の確保に努めたい。

(意見) → 相談しやすい環境、1 人 1 人を手厚く支援する体制など別府青山看護学校のよい特徴がある。「行きたい。」と思える学校づくりに今後も尽力してほしい。今ある学生を大切にすることで、未来につながると信じる。

(意見) → 広報活動に戦略が必要。例えば、ホームページなどを含め情報通信技術を駆使し、対象を高校生とする宣伝に着手するとよい。また、オープンキャンパスは回数を増やすなどして、できるだけ多くの生徒さんに参加していただけるよう工夫が必要である。

(意見) → 開設 3 年目、学校評価の体系が形になってきており感心する。様々な課題はあるものの、今後も引き続きよりよい学校経営を目指して尽力していただきたい。

4) VII(卒業・就業・進学)、VIII(地域社会・国際交流)、IX(研究)について

VII(卒業・就業・進学)について、昨年より 0.3p 下降した。今年度初めての卒業生を輩出した。卒業生の活動状況の把握や就業先との連携を図り、教育運営に活かしていきたい。

VIII(地域社会・国際交流)については、学生主体の自治会活動をとおして地域の方との交流の機会は増加している。国際交流においては課題があるものの、国際看護に関する科目については、海外支援経験のある講師をお願いすることができた。

IX(研究)については、0.4p 下降した。今後は、教員の能力や希望に応じた研修企画、教務研究会の計画・実施に努めたい。

以上の報告と意見をもとに、別資料（令和 6 年度学校評価）に課題と改善方策をまとめた。

以上